



ハイライト よねやま

秋の外国人叙勲 米山学友に旭日中綬章



旭日中綬章

リン マンレイ
林 曼麗さん

(1981-83・1996/東京保谷RC)



2006年、女性初の故宮博物院院長に就任。退任後、大学教授として教鞭をとる傍ら、大学付属美術館の活動や日本での講演など精力的に活動。2018年、日本との友好親善関係増進に貢献した個人や団体に与える外務大臣表彰受賞。現在、台北教育大学芸術の造形デザイン学部名誉教授。

(写真：2019年 米山梅吉記念館 50周年式典時撮影)

1. 米山学友が紺綬褒章を受章 後輩たちへの言葉

中国出身の米山学友、
周順圭さん(1962-64：東京西RC、1964-65&66-68：東京世田谷RC)が8月26日付で内閣府から紺綬褒章を授与されたことを受け、11月9日、都内で褒章伝達式が行われました。昨年当会へ50万ドルをご寄付いただ



褒章と木杯を受け取った周さん(左)と愛子夫人

クオフィスの増山正晴理事長が臨席されました。

小沢名誉理事長から紺綬褒章と木杯を受け取った周さんは、「米山奨学金には本当に助けられました。そのお返しは当然のことだと思っていましたので、このような賞をいただくとは思っておら

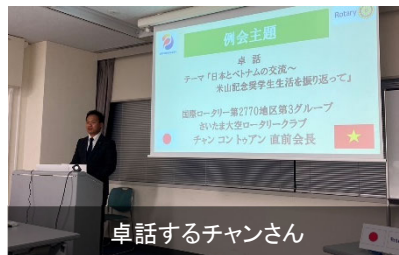
いたことにより、当会から内閣府へ申請。これが正式に認められ、今回の受章に至りました。

伝達式には、周さんと愛子夫人、当会の小沢一彦名誉理事長、若林紀男理事長、相澤光春副理事長、第2750地区の粕谷啓之米山記念奨学委員長、東京西RCの富田和宏幹事、東京世田谷RCの松本宜春会長、洪崇富幹事、矢作千鶴子直前会長、大友敬元会長、東京大学ニューヨー

ズ、とても驚きました。世間では後期高齢者といわれる87歳になりましたが、私は常に後期貢献者でありたいと思っています」と、受章を喜ばれました。現役奨学生・学友らに向けては、「奨学金としていただいたお金は大切に使い、たくさん勉強してほしいです。卒業後は、その力を社会に還元することで、社会に貢献してほしいです」と、後輩たちにエールを送りました。

2. 異なる景色から見る米山奨学事業の意義

9月4日、ベトナム出身の米山学友で、さいたま大空RC直前会長のチャンコントゥアンさん(2008-10/幸手RC)が、大宮シティRCにて卓話を行いました。



卓話するチャンさん

母国の若い人材を日本に送り出し、ベトナムの経済や教育水準向上を目指すジャパンオープンコンソーシアム協同組合で専務理事を務めるチャンさん。幸手RCでは素敵な方々に出会ったことで人生観が変わり、誰かの役に立つことの素晴らしさを体感したそうで

す。自身が会員になったきっかけは、同胞の先輩から「米山学友らで構成されるロータリークラブがある」と紹介されたこと。憧れだったロータリー会員として活動する中、「当時はありがたさを

強く感じていましたが、会員として改めてこの事業の意義を考えると、教育、親睦、経済援助を通じて世界平和、国際親善、人材育成など、まさにロータリーの目的を体現するこの上ない事業だと思います」と語りました。

3. 2024 学年度奨学金申込み状況

10月15日に締め切りを迎えた2024学年度のロータリー米山記念奨学金（学部・修士・博士／地区奨励）には、指定校563キャンパス（地区を超えた指定校の重複含む。前年度569キャンパス）から1,202人（1,334人）が推薦されました。被推薦者の国・地域は、中国52.1%（54.6%）、ベトナム13.8%（13.6%）、韓国10.3%（9.0%）、インドネシア3.0%（2.9%）、次

いでネパール、モンゴル、マレーシア、台湾の順となっています。課程別の応募状況は、博士課程19.2%（17.5%）、修士課程34.3%（34.2%）、学部課程43.2%（44.6%）となっており、2019年度以降、学部生の申込みが最も多い傾向にあります。なお、大学以外の教育機関を対象とする「地区奨励奨学金」には、9地区16校から計32人の応募がありました。

4. 寄付金速報 — 米山月間へのご協力に感謝 —

前年同期比

+ 4.4%

普 - 1.3% 特 + 7.8%

10月までの寄付金は、前年同期と比べて4.4%増（普通寄付金：1.3%減、特別寄付金：7.8%増）、約2,540万円の増加となりました。

10月末時点で累計額が6億円を超えたのは四半世紀ぶりとなりました。10月の米山月間にご協力をいただきました皆さまに、心より感謝申し上げます。今年も残り2か月を切りました。引き続きご支援賜りますよう、よろしくお願いいたします。

5. 支援に感謝 ウクライナ学友が来日講演

ウクライナ出身の米山学友、セゾネンコ テチアナさん（2017-19／大阪城南RC）がホームカミング制度で来日し、世話クラブが主催する「ウクライナ支援講演」（10月27日開催、協賛：吹田RC）で、侵攻後の生活や母国の未来について語りました。講演会には、国際ロータリー第2660地区延原健二ガバナーやロータリー会員・家族、米山学友などオンラインを含む300人弱が参加しました。

テチアナさんは大阪大学大学院で博士号を取得後、母国ウクライナに帰国。製剤化学者として勤務する日々が一変したのは昨年2月24日の朝でした。

「戦争が始まった。皆、仕事には来なくて良い。自分で安全を確保するように」。上司からの



支援への感謝を述べるテチアナさん（中央）

指示でした。その日以降、テチアナさんは仲間とともに、食料や医薬品、おむつなどの物資を届けるなどボランティアに従事。大阪城南RCでは彼女の苦境を案じ、緊急支援金を集めて送った

ところ、テチアナさんは自分や家族のためではなく、すべて支援物資の購入や輸送、困窮家族の援助に充てていたことがわかりました。「自分も苦しいはずなのに、われわれのお金を一番有効なことに使いたいという気持ちで使ってくれた。すごい子やなど。だったら、もっと支援の輪を広げてあげたい」と、今回の企画の発案者である西谷雅之会員は語ります。

この日の支援講演に寄せられた義援金はなんと4,027,350円。使途については随時、大阪城南RCのHPで報告されるということです。

もうすぐ締切

普通寄付金 申告用領収書の申請は 11 月末まで！

普通寄付金分の確定申告用領収証の申請期限は 11 月 30 日です。当会ホームページのメニュー、

寄付金について → 「普通寄付金：申告用領収書の申請はこちら」からお手続きください。

特別寄付金については来年 1 月下旬、自動的にクラブ経由で送付されますので申請はご不要です。